

社会教育 かわら版

第37回 小平町民文化祭

文化表彰式／11月9日(日) 12:30～
 芸能発表／11月9日(日) 13:00～16:30
 文化交流センター 多目的ホール
 展示部門／11月9日(日)～13日(木)
 全日 9:00～20:00
 文化交流センター ロビー、小ホール

 担当 文化交流センター(金子)

小平町PTA連合会「子どもフォーラム'08」 研究大会

日時 11月16日(日) 9時40分より講演開始
 (研究大会は9時00分より開催)
 会場 文化交流センター 多目的ホール
 講師 姉帯美和子氏
 (MIW工房主宰コミュニケーション・ナビゲーター)
 演題 「もっとコミュニケーション！
 ～聴き合うことからつながりが生まれる～」
 その他 入場無料、託児設置(要予約)

 担当 文化交流センター(金子)

おびらっ子クラブ「昔の遊び教室」

日時：11月15日(土) 10:00～11:30
 ところ：文化交流センター ホビールーム
 対象者：おびらっ子クラブ登録者
 内容：和風(わだこ)づくり体験
 講師：古川忠治氏(小平町生涯学習リーダー)
 申込み：11月12日(水)まで(電話・FAX・メール等)
 定員：20名
 持ち物：筆記用具 参加料：300円
 送迎バス：事前申込みがない場合、運行しません
 行き 鬼鹿公民館 10:30 帰り 臼谷寿の家 11:35
 臼谷寿の家 10:55 鬼鹿公民館 11:55

 担当 文化交流センター(長澤)

おびら太鼓麓龍公演 「若衆－wageshu－は元気だせい！」

日時 11月22日(土) 開場 15:00 開演 15:30
 会場 文化交流センター 多目的ホール
 入場料 一般 1,000円 高校生以下 500円
 DCシート(50席限定) 1,000円
 *パーカッションを備えた席で、いっしょに演奏ができます
 演奏曲
 MATSURI(新曲)、群来、東風、WAVE、天狗太鼓
 麓龍太鼓、ぶちあわせ太鼓、望洋太鼓

 担当 文化交流センター(金子)

社会教育かわら版の記事に対する
お問い合わせ・申込先

文化交流センター Tel 56-9500 Fax 56-9555
 E-mail syakyo01@town.obira.lg.jp (金子)
 syakyo03@town.obira.lg.jp (長澤)

小平郷土資料通信 No. 39

ロクク地蔵の話

－漂着物(寄物:よりもの)に対する信仰の系譜(けいふ)－

鬼鹿秀浦に「ロクク地蔵」と呼ばれる小さなお堂があります。お堂には船を陸に巻き上げるのに使う「ロクク(神楽棧とも言う)」の丸太が袈裟衣(けさごころも)を着せられて地蔵尊としてまつられています。「ロクク地蔵」の由来については小平町文化協会『おびらのむかし』に紹介されています。『おびらのむかし』をもとにロクク地蔵の由来を要約してみると、

…ずっと昔、ニシンがたくさんとれた頃のこと。シクが続くある日、本州から荷物を運んでくる「※弁財船(べんざいせん)」が難破し、沖を漂っていました。シクがおさまった明るる朝、浜辺に流れ着いた船の中を見ると乗組員はあらず、あるのはロククの丸太だけ。また次の日になると打ち上げられたはずの弁財船が消えて、浜にはロククの丸太だけが残されていました。浜での作業のじゃまとなったロククを漁師は何度も沖へと押しやりますが、どういう訳か戻ってきてしまうのです。そんなさなか、鯨の群来(くき)で浜は賑わいます。鯨かすを作るため薪(まき)はいくらあっても足りません。漁師はロククを薪にしようと斧(おの)をふるいました。「グサツ」と鈍い音と共に、ロククから血が流れます。斧を振った漁師もケガをしてしまいました。その夜、この浜の網元関寺庄太郎さんのお母さんの夢枕にロククが立ち「私はこの浜にいるロクク地蔵です。この地を離れたくありません」と訴えたそうです。信心深いお母さんはほこらを建てロククをまつり、それからというもの不漁の年もこの浜だけは鯨がとれたといいます。

※北前船のこと。北海道と大阪間に運行し、北海道の物を本州に、本州の物を北海道に運んだ北陸根拠の廻船集団

寛文5年(1665)に蝦夷地にわたった僧円空(えんくう)は、たくさんのお宝(なま)彫りといわれる独特の技法の仏像を道南地方に残しています。しかし道南の円空仏はボロボロなものが多いのです。これは仏像を沖に流し、漂着した仏像をまつる習俗(しゅうぞく)があったからだといわれます。日本全国の漁村には、こうした海からの漂着物(寄物)をまつる習俗があります。古来、日本では海の彼方に「常世(とこよ)」という神や仏、祖先が住む異界(いかい)があると信じられてきました。ロクク地蔵の話は海(神仏と祖先が住む異界)からの漂着物を「まれびと(訪れ人)」とみて神仏とする古来日本人の心性(しんせい、心のありかた)や、信仰の姿を反映しているように思われてなりません。

11月の古文書解読講座の予定
18日(火)です